

## 【事務局】

一般社団法人 熊本県社会福祉士会  
 熊本市東区健軍本町1-22 東部ハイツ105  
 TEL 096-285-7761  
 FAX 096-285-7762  
 E-mail kumacsw@lime.plala.or.jp  
 URL http://kumacsw.com/



一般社団法人 熊本県社会福祉士会ニュース

# CSWくまもと

## Certified Social Worker



発行責任者 深谷 誠了  
 編集責任者 田上 緒  
 発行月 2023年12月

第78号



## ソーシャルワーカーデー 2023 inくまもと

### 未来のソーシャルワーカーたち集まれ！

公益事業運営委員 担当理事 魚谷 康洋

11月25日、「ソーシャルワーカーデー2023 inくまもと」を熊本学園大学を会場に開催しました。

ソーシャルワーカーデーは熊本県医療ソーシャルワーカー協会と熊本県精神保健福祉士協会、及び熊本県社会福祉士会の3団体が合同で、これからソーシャルワーカーを目指す方々を対象に毎年企画、運営しているイベントです。

ソーシャルワーカーデーは海の日を中心に全国各地でイベントが開催されていますが、今年は11月に開催することになり、今までの3団体に加え、熊本学園大学、九州看護福祉大学、九州ルーテル学院大学の学生さんに企画段階から参加してもらい「未来のソーシャルワーカーたち集まれ！～多種多様な仕事について学ぶ～」をテーマに開催しました。



ソーシャルワーカーの仕事について話す担当者



受付で各コーナーの案内をする学生さんたち

今回は学生さんが積極的にSNSを活用してイベントの広報を展開し、当日は会場に約40名の参加がありました。

動画コーナーや〇×クイズを設置したり、各団体の担当者が個別のブースを設置して仕事の説明や参加者からの質問に答えたりしました。

実習先と関心のある分野が必ずしも一致している訳ではない学生さんにとって、現役のソーシャルワーカーの話を聞ける良い機会となったのではないのでしょうか。

## お知らせ

### 創立30周年記念式典及び2023年度臨時社員総会

日時：2024年3月23日(土) 時間未定

場所：ホテル メルパルク熊本

※詳細は改めて後日お知らせいたします。

## 2023年度 熊本県ハンセン病問題 啓発研修

## ハンセン病を知り、当事者の想いを心に残す

りんどう相談支援センター 相談員 高田 佳子

2023年11月25日(土)「～ハンセン病を知ろう～私と家族とハンセン病」と題し、令和5年度ハンセン病問題啓発研修会を熊本テルサにて開催しました。会場・オンラインあわせて約100名が参加し、会場後方ではハンセン病問題の啓発パネルの展示も行いました。主催である熊本県の木村敬副知事が「ハンセン病は制度、社会、人々の手によって偏見差別がつくられてきました。私たちが差別をつくってしまったという特質を知り、心に刻みハンセン病を理解していきましょう」と開会挨拶をされました。



黄 光男(ファン グァンナム)氏の講演

「私が1歳の時に母親と姉がハンセン病を発病、家族と引き離され施設に預けられた。のちに家族と再会し一緒に住むようになって、親子関係を築けなかった。らい予防法が無ければ、こうはならなかった。50歳になってハンセン病を語り始めた。市民は自分にも加害責任があったかもしれないことが問われる。”力を持ったものが言うから”と情報を鵜呑みにせず、おかしいことはおかしいと声を上げる勇気を持つことが大事である。世間に同調するという社会構造がある、本音と建前の使い分けがある等手ごわいが、それでは差別は解消しない。学校でハンセン病をきちんと教えること、語りの導入が必要と考える」



深谷会長の挨拶

第1部 13:40～14:00  
「詩・短歌の朗読 厚い壁の中に閉ざされた想い」  
熊本県立熊本高等学校 放送部

第2部 14:10～15:40  
「ハンセン病家族の想い」  
講師：黄 光男 氏 (ハンセン病家族訴訟原告団副団長)



【講師のご紹介】

1955年大阪府吹田市で在日朝鮮人二世として生まれ、1歳のときに母親と姉がハンセン病を発病。母親と姉は岡山県の国立療養所長島愛生園に隔離され、自身は岡山市内の養護施設で育つ。家族5人で再び暮らせるようになったのは1964年9歳のころ。  
尼崎工業高校を卒業後、尼崎市職員に採用。2016年2月「ハンセン病家族訴訟原告団(あじさいの会)」の副団長となる。

第1部では「厚い壁の中に閉ざされた想い」と題し、菊池恵楓園入所者の方の詩や短歌8作品を、熊本高等学校放送部の5名の生徒が情感豊かに朗読。優生保護や墮胎政策により子供を持つことを許されなかった、赤ちゃんに対する想いを詠んだ「赤ちゃん」、隔離政策による強制入所で、2度と会えない母親との子供の頃の思い出を詠んだ「五右衛門風呂」等、奪われたものの悲しみ、静かな怒り等の想いが切なくこみ上げてきました。

第2部では、「ハンセン病家族の想い」と題し、黄 光男(ファン グァンナム)氏が講演されました。そして、ハンセン病問題の啓発のメッセージを込めて黄さん作詞・作曲の歌を、ギターの弾き語りもされました。

りんどう相談支援センター長の深谷誠了(社会福祉士会)会長が、「社会、メディアにも加害責任がある、社会の一員として社会へのメッセージを深く受け止める。社会が引き起こしたという思いを持ち、平等な社会への復元を皆さんと一歩一歩歩いていかなければと思う」と挨拶をされ、閉会しました。

朗読をした生徒は「朗読をすることで自分の身に落とし込んで発信をした。現実味があり現実のこととして心に残すことが出来た。貴重な機会をありがとうございました」と語り、将来世代を支える若者への人権教育のきっかけ作りができたと思います。また、知識を広めるだけでなく、次は行動の変容をどうするか、知恵を出し合っていかなければと感じました。

# 災害シミュレーション会議

## 速やかな災害対応のために

災害時支援委員会 委員長 遠山 健吾

9月30日(土)に災害対応シミュレーション会議を開催しました。これは、災害発生時に速やかに熊本県社会福祉士会としての必要な災害対策、体制整備を図ることを目的に、運営協議会メンバー(理事、監事、委員長、ブロック長等)を対象に毎年9月に開催しています。

ここ数年はコロナ禍の影響でオンライン開催でしたが、今回は会場(熊本市中央公民館)とオンラインのハイブリッド形式で開催し12名の参加でした。仮に災害が発生した際、被災状況によっては災害対策の会議を事務局や集合式で開催することが不可能な場合も十分に想定できるため、そのような意味では開催形式から災害対応シミュレーションだったと思います。加えて当日の参加が難しいメンバーは、「災害で参加不可」と想定し取り扱いました。

内容については、はじめに本会災害対応ガイドラインの概要(本会ホームページ掲載)を説明後、会場班とオンライン班に分かれて演習を行いました。今回は水害を想定し、①「大規模な水害が発生しました。今のところ県士会からは特に連絡や指示はなく、事務局とは連絡が取れません。理事・監事、委員長、ブロック長としてまずは何を行いますか」②「今後、県士会として災害支援を行うにあたり、まず何を行う



必要があるか検討してください」の2つについて、できる、できないは想定せず意見交換しました。

全体を通して、ガイドラインや支援体制の見直しの必要性及びブロックの災害対応(連絡体制)を確認することができました。今年は、関東大震災から100年にあたり、『災害』に触れる機会が多い年だったと思います。そのような中、今回も災害対応について時間をかけて考える貴重な機会となりました。



最新の情報は、熊本県社会福祉士会災害時支援委員会のFacebookをご確認ください！

<https://www.facebook.com/kumacswsaigai/?ref=settings>



## 2023年度 災害支援者活動者養成研修

## ソーシャルワークを基盤とした災害支援を学ぶ

養成研修修了者 吉岡 光子



災害支援活動者養成研修の一場面

熊本地震から7年。

当時避難所になった益城町総合体育館(2020年7月利用再開)にて開催された災害支援活動者養成研修に参加しました。

研修の内容は、①災害支援に赴くにあたっての心構え②令和2年度豪雨災害の経験を通して③熊本地震の経験を通して④グループワーク⑤益城町、西原村の現在。

災害当時の対応状況や気付きなど詳しくリアルな内容で、災害時の対応として日頃からの準備や連携が大切だと感じました。

災害時、携帯電話や固定電話はつながらない状況になりSNSがとても役にたったという話が印象的でした。個人情報取り扱い等のルールを整備し、具体的に災害を想定し安否確認や情報収集・発信の方法など普段から活用していく必要性も感じました。

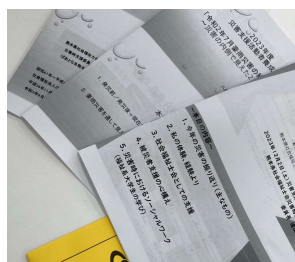
グループワークでは日本社会福祉士会災害対応ガイドラインの支援方針①ソーシャルワークを基盤とした支援②被災地が主体となる支援③終了後を見据えた継続的な支援の3つの柱の大切さを学ぶことができ、この研修に参加できてよかったです。



研修会場は益城町総合体育館



展示資料



配布資料

令和2年豪雨災害の経験を話す  
八代市第6地域包括支援センターの松下和聖氏

# 2023年度 社会福祉士 受験対策講座・模擬試験

## 社会福祉士 国家試験 合格をめざして

受験対策委員会 委員長 横手 由利

2023年9月3日(日)～10月15日(日)の間で、社会福祉士の資格を目指す社会人や学生の方を対象に、5日間の受験対策講座を開催し、22名の受講がありました。

本講座の特徴は、共通科目・専門科目全19コマの講座を実施し、テキストの内容を基本に、重点項目や出題傾向などの説明を対面にて聴講することができます。



講座の様子

また、共通科目と専門科目のどちらか片方のみ受講することも可能であるため、精神保健福祉士を目指している方にもお勧めです。普段、各専門分野の講師からアドバイスを受ける機会が少ない社会人の受講者にとっては、この時期の講座はチャンスでもあり、熱心にメモを取る姿も見られました。

講師には、社会福祉士会員はもちろんのこと、福祉・医療の専門職や大学教員の方々を迎えて、試験問題を解く際のコツや、現場でのエピソードを交えた熱のこもった講義が行われました。休憩時には、受講者同士で受験勉強の悩みやお互いの勉強方法を話し合う場面も見られました。

今般、社会福祉士養成課程において、カリキュラム改定が行われたこともあり、これまでのカリキュラム内容での試験出題は、今回の第36回試験が最後となることから、特に、新カリキュラムに移行する前に合格を目指しましょうという講師からのアドバイスも後押しとなり、受講者からは「より一層、試験勉強に向けての士気が上がった」「必ず合格します」という声が聞かれました。

また、講座修了後の10月29日(日)には、全国統一模擬試験を開催し、42名の受験申込がありました。この講座・模試が、本試験に向けての準備とイメージを整えるきっかけとなれば幸いです。



模擬試験の様子

※介護支援専門員受験対策講座・模擬試験については、申込者数が定員に満たなかったため、今年度の開催をやむを得ず中止いたしました。受講を希望されていた方や、講師を引き受けて下さっていた関係者の皆様にはご迷惑をお掛けいたしました。

## 生きづらさを抱える子どもたちと向き合う

子ども家庭支援委員会 鬼武 優子

8月の猛暑の中、パワーあふれるソーシャルワーカーに出会いました。一目見て、「ただものではない雰囲気」、でも不思議と自分の悩みを聞いてほしい、そんな感情が沸き起こります。その人の名は「渡邊美代子」さん。たくさんの資格と経歴をお持ちですが、現在は新宿歌舞伎町で青少年の支援をされています。

この日は、渡邊さんが関わった貧困母子家庭の話がされました。頑なな母の心を溶かし、信頼を得て支援に結びつけていました。簡単に2行で表現していますが、一つ一つの段階で渡邊さんが葛藤された心情、丁寧なやり取り、時間も心も頭もフル回転の支援でした。

この講話で私の胸にズシッと突き刺さった言葉があります。「めげちゃいけない」。支援がうまくいかなかったも、めげずに動くことが大事なのだとなりに解釈しました。実際、渡邊さんは法律をかなり駆使して活用されています。私には備わっていないパワーです。

いつもの私なら、すごい人を前に「私には無理」となりますが、この日は渡邊さんのパワーに触発されたのか「めげそうなケースをもう一度洗いなおそう」と思いました。



講師：社会福祉士事務所 わたなベワークース  
渡邊 美代子氏

ここに書けず残念ですが、同行された青年Sさん(元非行少年で現在は運送業の仕事をする傍ら同じような境遇の少年たちの支援を行っている)も講話され、有意義で貴重で濃厚な時間を過ごさせて頂きました。またいつか会いたいと願わずにいられないスーパーワーカーさんとの出会いの研修でした。



講師の話を熱心に聞く参加者

## 2023年度 新規合格者の集い

### 新規合格者へ社会福祉士会の活動を紹介

広報委員会 委員長 田上 緒

11月4日に「2023年度新規合格者の集い」が会員サービス委員会の企画で開催され、広報委員として取材を兼ねて参加しました。

冒頭、深谷会長の挨拶の後、会員サービス委員会の久保田委員長から熊本県社会福祉士会の組織、委員会活動、ブロック活動等の説明及び紹介がありました。

続いて、研修委員会の綾香委員長から「資格取得後のキャリア形成～生涯研修制度～」の説明がありました。

後半は、グループワーク前にアイスブレイクを兼ねたレクレーションがありました。参加者一人につき1枚の紙が背中に貼られ、自分の紙との内容と関係がある内容が書かれた方を探す(例:財布、お金)ゲームでした。自分自身の紙に何が書かれているかわからないので、質問しながらペアができていき、自然と全員がコミュニケーションがとれていたように感じました。



グループワーク前のアイスブレイクの様子

アイスブレイクの後は、2つのグループに分かれて、改めて自己紹介や自身の業務内容などを説明し合う機会がありました。

新規合格者のなかには福祉の仕事自体が初めての方、以前から福祉業界で仕事をしてきたが国家試験に合格を機会に社会福祉士会に入会希望する方など様々な方が参加されていたようでした。

懇親会にも多くの方が参加され、グループワークの時に聞きそびれたことや入会後の具体的な委員会、ブロック活動のことが話題になる等それぞれが親睦や交流を深めることができました。



参加者の集合写真



# information

## ◆創立30周年記念式典及び2023年度臨時社員総会

日時:2024年3月23日(土)

場所:ホテル メルパルク熊本

(熊本市中央区水道町14-1)

※詳細は改めて後日お知らせいたします。



ホテル メルパルク熊本

## ◆研修委員会よりお知らせ「集え！研修委員会！」

研修委員会の委員を募集します。

主に基礎研修Ⅰ・Ⅱ・Ⅲおよび実習指導者養成講習会等を担当しています。

講師、ファシリテーター、スタッフともに和気あいあいとアットホームに学びと親交を深めています。自薦他薦を問いません。初心者大歓迎！懇切丁寧に対応させていただきます。

詳細は事務局までお問い合わせください。



## ◆2023年度 第1回天草ブロック研修会

テーマ:「地域共生社会」の実現に向けて

～障がい・高齢・児童福祉分野の取り組みを知る～

講演:『障がい福祉分野における

天草圏域の相談支援体制について』

講師:天草市役所 福祉課 参事 濱村 寛美 氏

日時:2024年1月19日(金) 19:00～20:30(予定)

場所:天草市複合施設 こころす 会議室D・E

(天草市浄南町4-15)



天草市複合施設 こころす

## つぶやき

読んでいた小冊子の目次に「先送りしない」という見出しがあり、興味を惹かれ読んでみると、自分の終活の話で死後の事務を先送りしないという内容でした。興味を惹かれたのは、本の内容とは違い、私の仕事のモットーとしているのが「後回しにしない」だったからです。「先送り」と「後回し」何か意味が違うのか気になり調べてみました。先送りとは、解決や決断、処理などの日時を延ばして行うことにすること。後回しは順番や優先順位をあとに遅らせるということでした。違いがよくわからなかったのですが、世間的には後回しの方が良いイメージではないようです。面倒な事を後回しにして、もっと早くやっておけば良かったと、締切間近になり後悔しないように、つつい後回しにしていまいがちな自分に対する仕事の上での心構えです。

世間では、色々な問題が後回しになっていると感じます。やるべきことは後回しにしないようにと私の後回し癖を反省しつつ、仕事の事ばかりではなく、自分の幸せな時間も後回しにしないようにしたいものです。



広報委員会 篠田